

特定非営利活動(NPO)法人

仙台敬老奉仕会

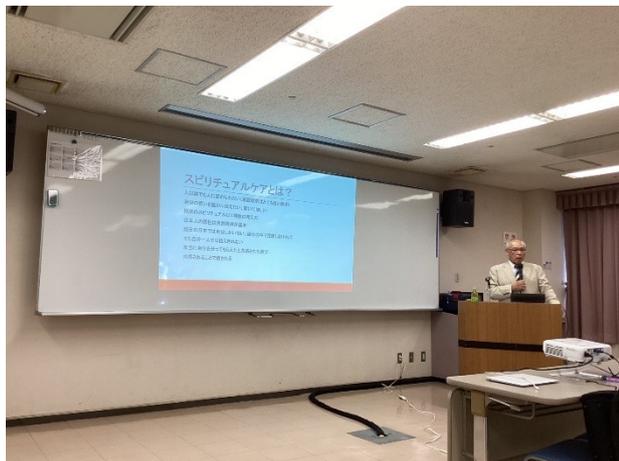
<http://sendaikeirou.web.fc2.com>

第81回研修会 ご報告

- ◆日時：2023年8月6日(日) 15時～16時
- ◆場所：仙台市福祉プラザ 10階 第2研修室
- ◆演題：寄り添いボランティアの導入
- ◆講師：医療法人 本多友愛会理事長 本多正久氏
- ◆司会：鈴木和美理事
- ◆講演要旨：
 1. 老健はくあいホームの紹介
 2. 人の一生
 3. 看取りの時期
 4. 晩年になった家族を想う家族の思い
 5. 晩年のありようと本人の思い
 6. 看取りとは何をするの？
 7. 寄り添い・傾聴するとは？
 8. 穏やかな最期と納得
 9. 老健介護の問題と角田市の取組み

老健はくあいホームの一日を通して老人介護の切実な問題を丁寧に分かりやすく教えて頂きました。「寄り添いたい、愛おしい」といった家族の思いと、終末の時期を共に過ごす医師の心のありようを切々と語って頂きました。

会場風景



理事会 ご報告

- ◆日時：2023年9月26日(火) 17時～
- ◆場所：仙台敬老奉仕会事務所
- ◆理事数 11名のうち、本人出席 8名
委任状 1名 欠席 2名

◆議事要旨：

仙台敬老奉仕会の理事会において、吉永馨理事長より下記の議案の提案があった。

第1号議案

ボランティア活動に関する制度移行

ボランティアが特別養護老人施設の準職員の身分として活動する。

この制度は2017年以降、地域共生社会制度の中で規定され日本で推奨されている。

それが元になって下記の提案がなされた。

1. 特別養護老人施設側が寄り添いボランティアを準職員として管理する事とする。
 2. 寄り添いボランティアは特別養護老人施設が自力で募集して交通費は特別養護施設側が管理して支払う事とする。
 3. 仙台敬老奉仕会は、ボランティア交通費は支払わずに、春圃苑のようにボランティア募集・教育は特別養護老人施設が実施・管理する事とする。
 4. 仙台敬老奉仕会は寄り添いボランティアの研修・普及活動に絞って広報していく事とする。
- 上記の提案を受け審議され下記の結果となった。

- 今後は、各特別養護老人施設・寄り添いボランティアに新制度の移行の件をお知らせする必要があります、1年度をめどに新制度に移行する準備する事になる。
- 更に、理事会で承認された新制度の移行の件は、次回の総会で承認を得る事とする。
- リーフ鶴ヶ谷で検討して理解を示された新制度移行の内容を他の特別養護老人施設でも推進していく事とする。

最終的には、上記の意見内容を推進する事により第1号議案は了承された。

第2号議案 新事務局体制

理事の古川明事務局長の体調が優れない事から、当面、事務局体制を下記の通りとする。

- 一般管理 鈴木和美理事
- 総務担当 向井田洋理事
- 財務担当 齋藤しづ子理事

出席者の理事の全員の賛成を得て第2号議案は了承された。

理事会ご報告の解説

仙台敬老奉仕会 吉永 馨 理事長
前記理事会の決定は以下のような状況を改善し、寄り添いボランティアの充実を図るために決定された。現状は当会がボランティアを募集し、施設に派遣している。施設はこれを受け入れ、入所老人に寄り添い、老人の寂しさ、孤独感、見捨て感を和らげ、心のケアを担当させている。しかし、派遣ボランティアは施設から見ると外部の他人で遠慮もあり、職員との間に仲間意識は育たない。時に両者の間に不和を生じることもある。

これに対して欧米では、ボランティアは施設が募集し、トレーニングし、入所者に寄り添ってもらう。無給の職員として遇する。ボランティアは職員仲間として職員と協力して年寄りを支えている。職員は主に体のケア、ボランティアは主に心のケアを担当するが、互いに助け合い、協力し合って心身両面の介護を行っている。ボランティアは準職員として存在する。両者の協力体制は派遣型ボランティアでは育たない。両者の違いは決定的である。

我々はアメリカやカナダの実情を学んできた。そしてそれを日本に導入し、人手不足の緩和と介護の充実を実現しようとしてきた。しかし、寄り添いボランティアという思想がない日本では、家族でない市民が老人に直接接触することは容認されていない。そこで派遣型をはじめたが、それさえ受け入れてもらうには3年もかかった。

その後、受け入れ施設12カ所に、ボランティアも60人ほどに増えたが、そこで止まり、むしろ減少傾向さえでてきた。ボランティアを辞める傾向も出てきた。そこにコロナの流行が始まり、ボランティアは自粛することになった。最近、コロナ感染が峠を越え、減少してきたので規制が緩み、ボランティア再開の機運が生じてきた。しか

し従来の派遣型ボランティアを再開しても、大きな発展は期待できない。やはりアメリカのように施設がボランティアを募集し、面接して確認し、準職員として再開するほかはない。ボランティアが生き甲斐を感じて励む形（つまり欧米型）でないと欧米に追いつけない。以上が理事会で確認し、再開に当たってアメリカ型を取り入れることにした理由である。

賛助会員募集！

私達と一緒にボランティア活動をしてくださる方（正会員）、会の運営資金を援助してくださる方（賛助会員）を募集しています。

■ 正会員

主に特別養護老人ホーム（仙台市老施協等の12施設で寄り添いボランティアとして活動しております。

活動にあたっては交通費・ボランティア保険を用意しています。

個人年会費 : 1,000円

■ 賛助会員

個人年会費 : 一口3,000円以上

■ 寄付

個人寄付

法人・団体寄付

■ 会費・寄付の振込先

七十七銀行 泉中央支店

普通預金 口座番号 5516609

特定非営利法人 仙台敬老奉仕会

理事 吉永馨

ゆうちょ銀行 記号 18140

普通預金 口座番号 15888181

特定非営利法人 仙台敬老奉仕会

理事 吉永馨

文責 仙台敬老奉仕会理事 鈴木 和美

「仙台敬老奉仕会」事務局

- 〒980-0801 仙台市青葉区木町通
2丁目5-18 大熊ビル3階
- TEL/FAX 022-725-7284
- e-mail sendaikeirou@yahoo.co.jp